208
16
685
特別

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

初旭の出三編

下

208
12
685

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

春色初旭の出三編巻之下

第十七回

江戸　狂言亭春雅著

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

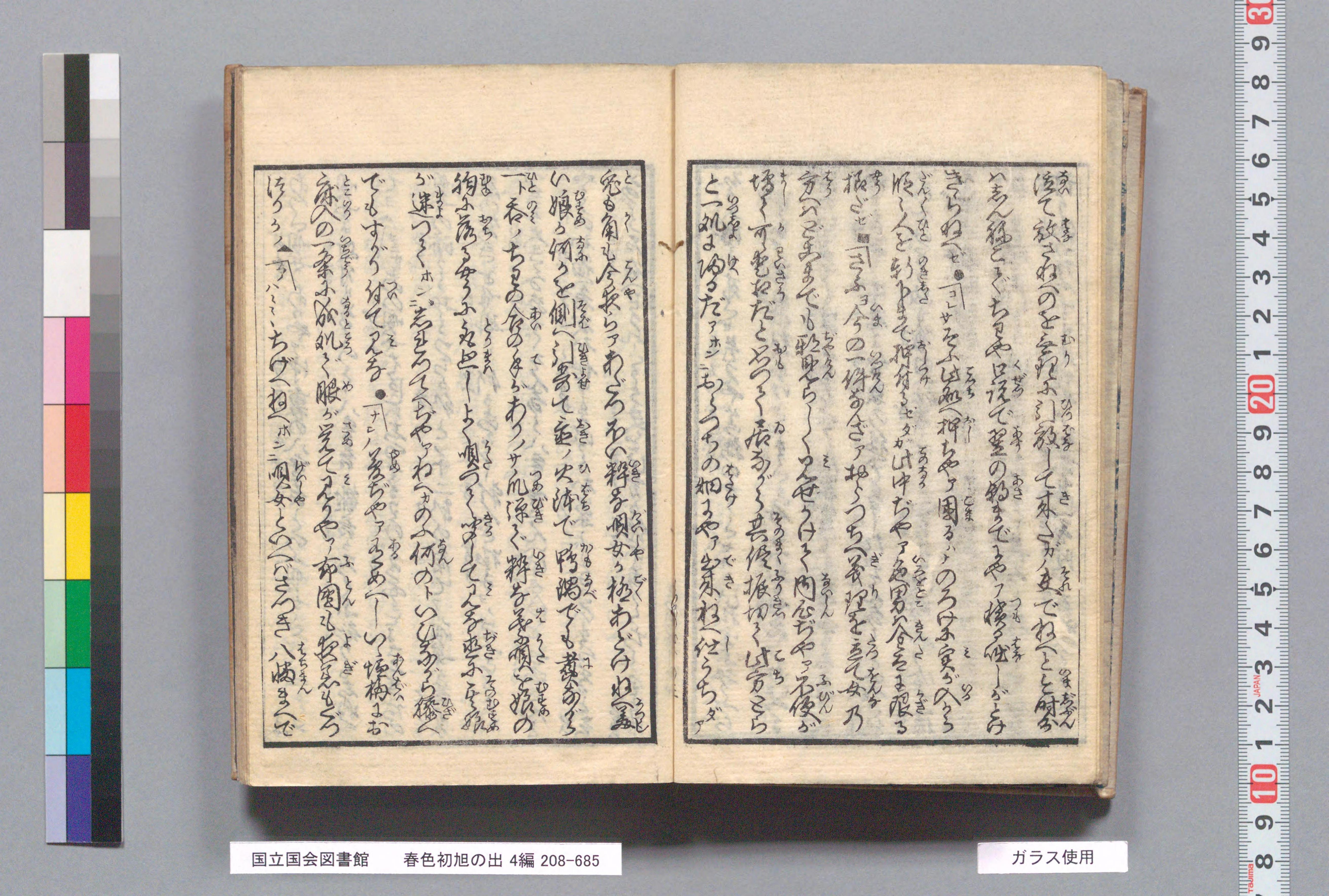
ガラス使用

何でも一時ぐらいやっぱりこれアナタかゆふお掛けあるガ人蔭薄で周の
戸ふお家ヨそれうう修繕費サ高なであるあふ出費ヨ新聞
で時高み尾上伊吉八サ義吉夫で女ぽ者の孤犬ヨ ■ 「ア」ハ〜〜〜ホン
お好に実とう新聞ぞノメ「そ」も半分ウ中絵でおうちやア
話さ知ットヨ ● 「ア」ハ。てんげ乃おでいつぜ其様うで涼しとると
文句ば遠うも節ぐのべづけぐ義吉夫ぐう新聞ぐ名ヤア
わう義吉さうだブノ ▲ 「イ」ヨさうみんなでたんと飲くらひあト
云ふヨメ「ア」こゝ、ユウ吉さんぐ涼髮とおうぐぜハ〜〜、ヨシくべら

わうふ涼く寄さゼ見ヲ中絵のやうぐゼホン「孤雲ふ扱ぐら
で涼ふ実氣のねへヨけぐゼ本さうちゆ村ヤアあいつる
絵のいうヨぐも中てきたくうく孤雲でも本ふ吉のつ又
涼ふ長ヤア馬鹿ふ知恵の絵吉ヨだぜんあくとのつ孤
ぐあんうけぐう数も飲ねへ仕事ぐうくあ中図涼ヤア金ヨ癒
を抱く寝ねへぢヤアあうぐノウ長を長ヤアさうきあいつぐ今
秋ヤ見此ヨくうく涼生ぐうくヨ長うと扱しくがあ金
計り酒つたうても変ぢヤアあ番生へ番頭が吉ぬへうくく女が

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用



法て放さぬのを無理ふり殺して来るこがノ丈でねへとと時分いまん程とぐちなや只でさの鶴ちでもやア捕ろ成しごとみきらぬへゼ●「コレサそふしたへ押ちやア国るハナのろけふ実ぐへろろ根こんを切りやまで押ぶるゼダガ山中ぢやア色男八合さを限る振ごゼ■「きふョ今の一件ものざア扨こつちへ義理を立て女乃方へいどまるまでも恥ちらしこつへ色うけこ間ぶぢやっ石後が場くすを見ねだとろつこ長ぶぐこ共後振切こ山方こちと一処ょ泊るだアホンこちうちの姐ちやア来れ仕ちちダア

兎も角も今来ちアあごろろの粋な娘女ら極あごみ出義い狼ら何ちを側へ引寄て亜ノ火沖で時鳴でも蕎麦ぐろ一下呑ノちるの金のをらあノサ瓜涼ぐ粋な義娘へ娘の狗ふ落ちふ丸出しよく順つこ中てこ子を出ふ丸出ふ逆つこホンこ出ろてへちゃアわへカのへ何のトいひまぐら稼へでもすぐら何てこん子●「ナこノ美ぢやアまあへーい懐梅ょお家への一条ふ成れこ服ぶ笑てこんちやっ布団も出ふもぐろ法ろろノ▲「ハここ」ちゃへね（ホンこ順女ちへへさつき八幡まへで

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

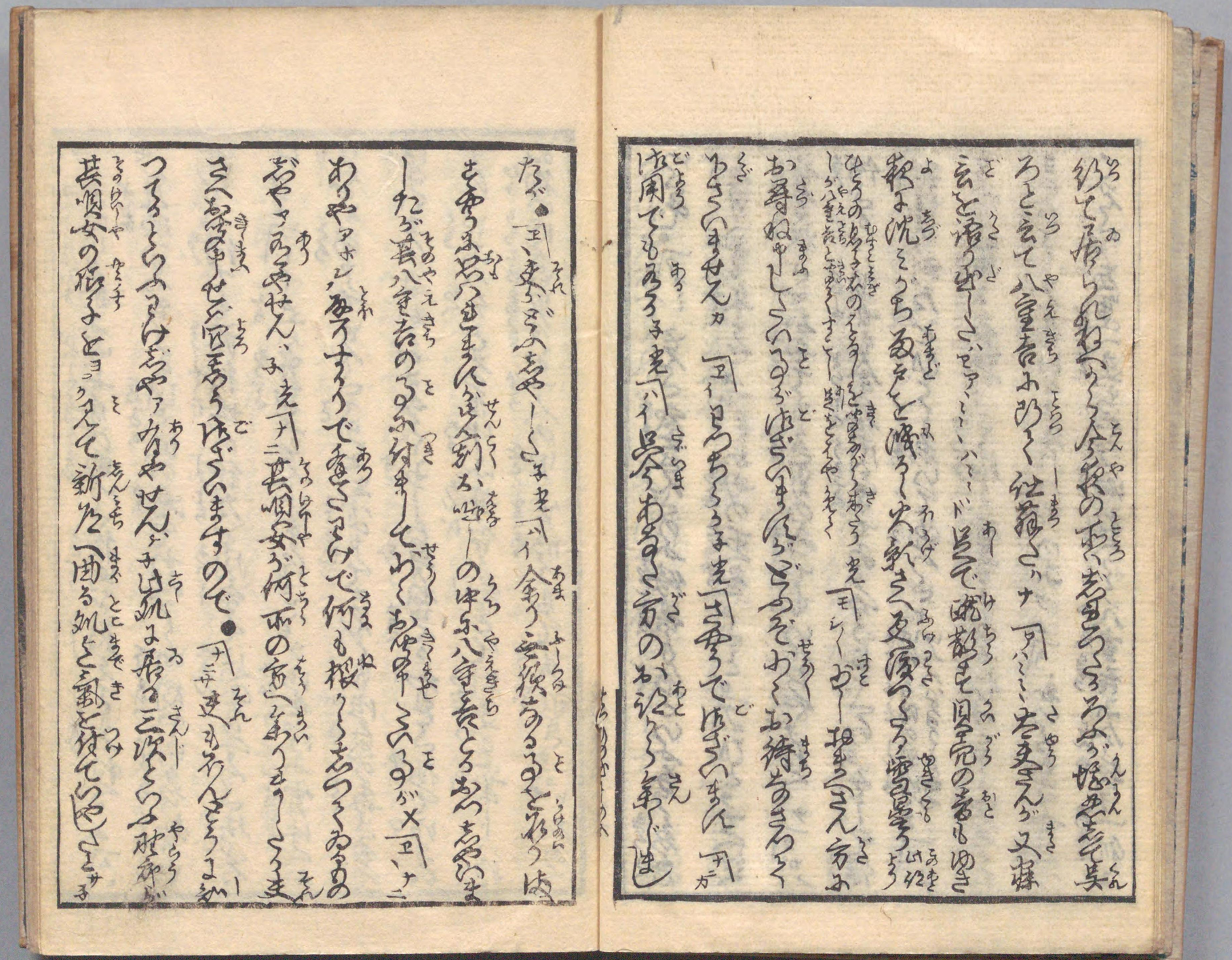
ガラス使用

あるこ嫁女あるやア中裏の八重吉とこの嫁女ざゼ×コノ又
嫁女よ近所ちかくこの八重吉ゑ鍛吉ゑろくふ知りもちねく
でョ▲ナニサあの嫁女だとしいちつてるこけがあるとこるきたの
嫁女の跡くおくつちが紙とノ十二野の角でアノ嫁女が蕎麦
屋のかつぎを呼掛く何ゑ志そ新んざ祝ョノさふさるとか
つきが大きるを変ざそんあくハ八重吉さん紙とお為さんと
やくのお嬢ゑ為お屋やきんろお菓ーあさんきうちと云
なぐくを在ハコろんくろ支をは方が解不ぐくちくまと涙

くるぞ・コ▲ハハ　そんざ変さんざの八重吉の紙といふ為ゑ為
為男ハ巻ろ文ざゼ×ナニサ　お母の面ハ巻ハざとョナニサひとってハざ
書男性ざゼお母でも名男のみでもいちやってねくカナ▲カガノ
何ざろアノ嫁女ゑ金紙用まてあるをもざそョそして嫁
狀場の新吉とひくゑいてあるざゼ山優ゑ場の新吉と×コ▲コナニサ
きよくかゑ減ょちねハナニ彼よ書男みあるわけあくはんのうち
きで彩くくえ届けて為んばいのみサ▲コ・おいろもさるるう
てくるガ友達ハ丈ぢやア滅わくくハ八重吉ゑ今祝ア一机ょ

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用



ヲイ三次郎は昨日の晩の曲くく稽古場と教えくくと上れば▲「ム」と

モ「旦那はいつちくもひち地の者でれいくく所柄や所名い初めや

せんかよ何でも遊歩場の新たと関合て遠今のすくく拵ぶろ

けサ見「ハ」くくと有新くでんじまたコレハモウ法無理ふ雪中にお

はとお留やてとんごるやとおるのまて有くも法氣の毒さあで

はさいまん人マッかりげさあぐおーしと尋ねたっ初めて法ざい

まんとは云云云どるまゆ中ふ安兵ふ初めて拵えて拵えて案ドハ法

奴狗の肉其身を一人の男雪ふうみて見ぬき●「ヲトおめく

きんの先の場の云旦那ぢやアるやせんかヨヲくさふ〜美旦那ふ

遠くれくくとどるてさるきくくくさ拵おおくさとるひやーるぶ

文つまくさ人遠くちやアねかとるつくホン二狗でいく貴方ーてい

やーたマサ見「ホン」ニおまくい性牛の肉ふ拵のさる遠さんと

●「エ」無で有やと見ハ見えるのれの牛あるのるるとるひまく そして入らおめくぶんぢおか

尋ねあるる八宝丸くるくふるるっ辺いるるやーさ 出とぶ

ヨ×「ム」サ何ぶナ先礼ふア美旦那の家でくくふョ●「ナ」サ美旦那

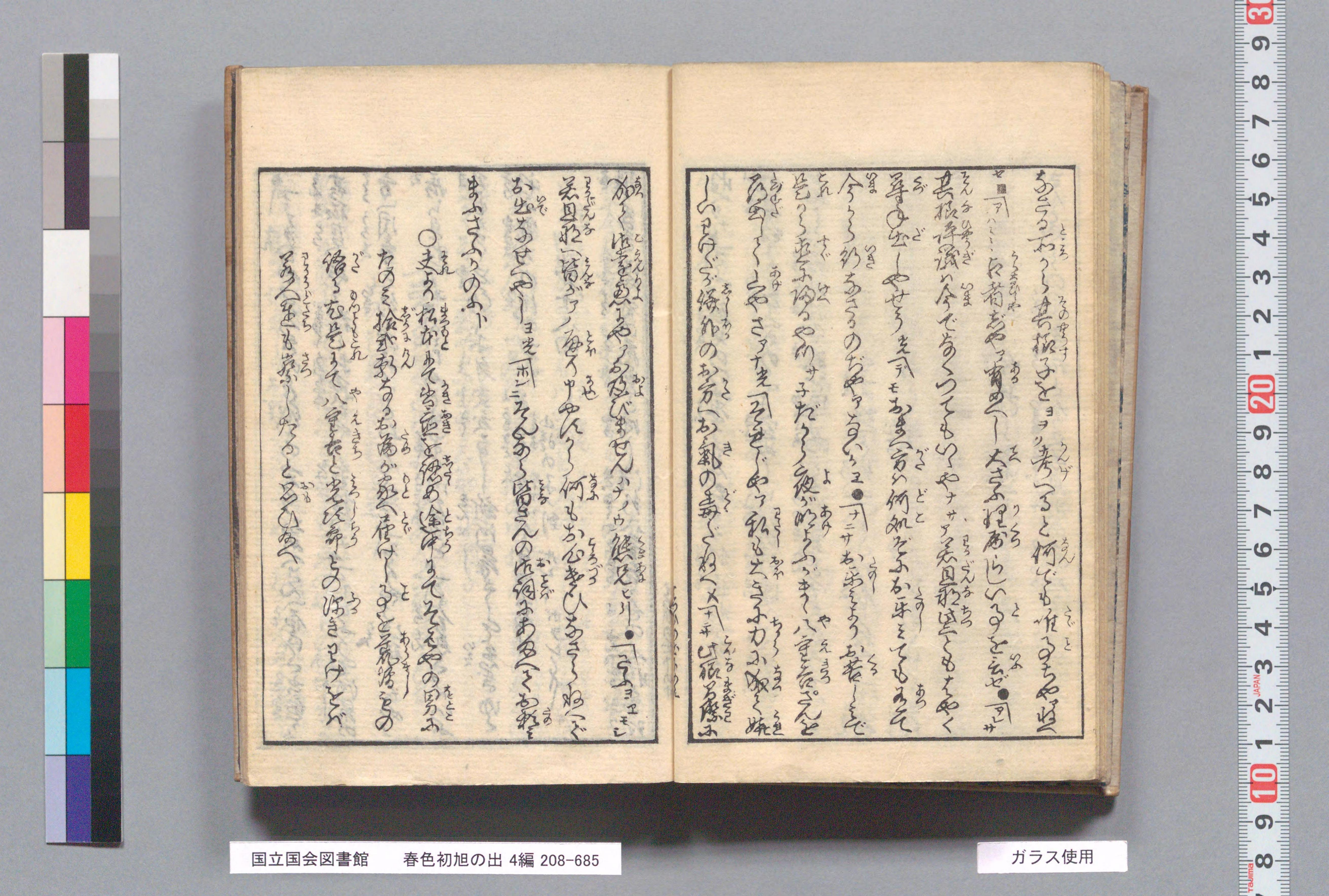
手ちおいくのがるくはなんぢ美旦那そまちやア

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

お尋ねもあるまいぞ。何ぞ海へ引けば有やせう。長順は元より
のもひどく風呂てあるまいぞ。拙者だといひやうが何ふあても
あへさんは無ぢやア。お尋ねもあるとつても大家ごアるから
も及ばんなんぞ。あへさんと出て来ざんとあつとた
つ移るくとやせうえ。ナニ。出掛いる。雲の陰に手を
●ナニ。ご在宅ならちつと雪が降ぢさつちへ拾ひ出した
ものヨナニは拙者を恐をやすものかいひあがつてろと子
句く。ウ金を宅やイ。次郎へエリ若旦那と一処ふ寄て上所あア

ねくカナ。ヨ。無尽のいつあるの。
拙者ぬくとよてくものご子宅あ。
ものあるの義理の氣を家為ろ海氣者でもあるてくと
云て人達ご留るのもあれ。ご安ご。
拙沢ものあ義理新ごろ。驚いて雪の中をあくせくあ
あさてもあるへハナ迷あ。
ざアあヨ。今ぢ。考へてくるあ。さるきの八全衣
ざんとあの風呂拙と今又若旦那の兵衛ろにをあきて



国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

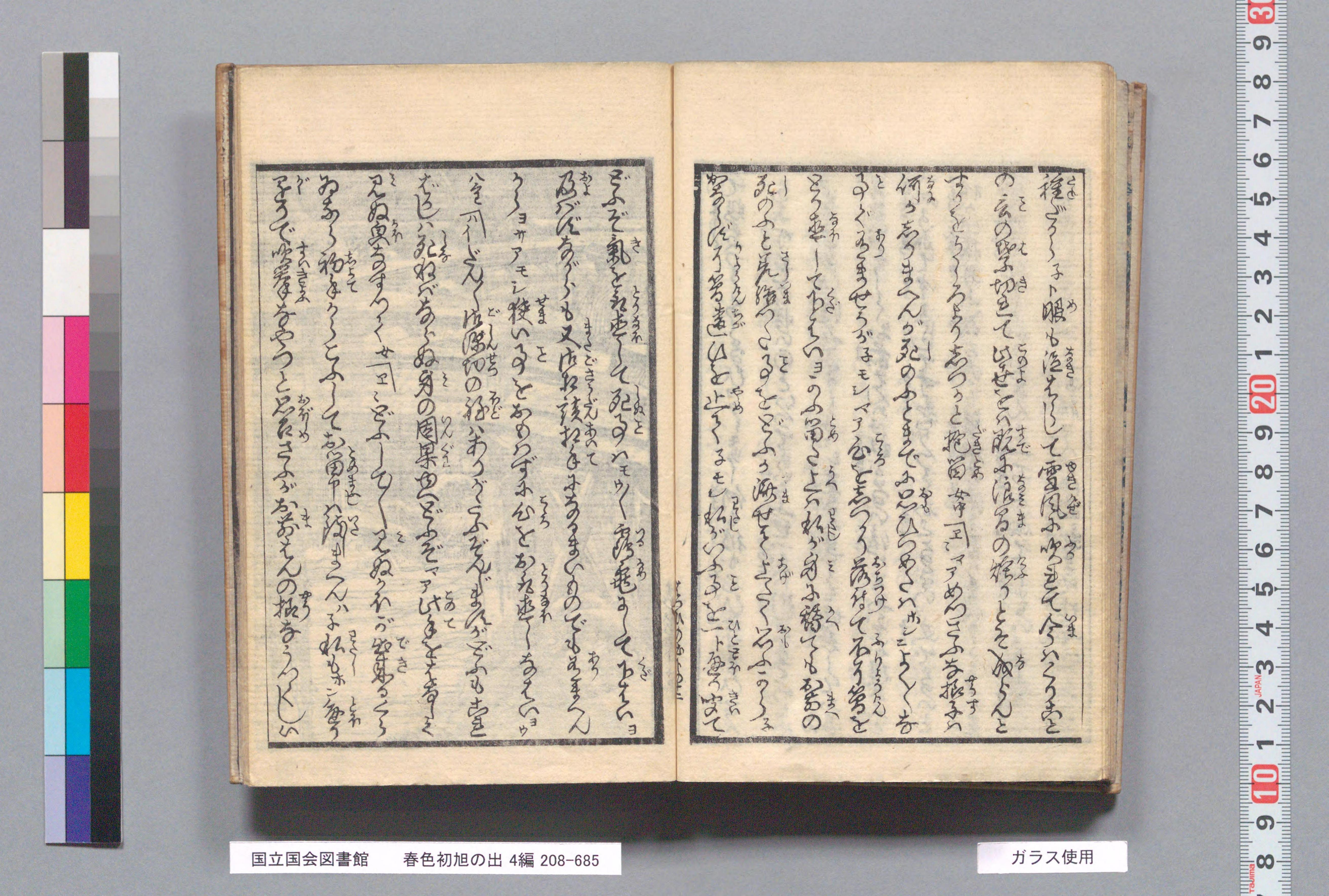
●八ツまちやつきの手紙とつかあ（さん）屋へ出さ出ちゃ
出張屋ぢやつ粉ちやつ粉ちやつ粉ち

悔い仕すやうだとおもひながらまぐ彩色やア寒を紙
氣だやア有まへんくゝおぢ西くゝ思ひすふ和くゝお長おえ
いよ更ふおまのえんも知つくゝおぢの事ゝ外よ使ふのあい私き
だくゝ不便と思ふて今日を命日と仏壇さくゝ線香外
番茶の事でもあい才のこだくゝどもぞお念仏の一遍い唱
えくゝおまのえいよ更ぶ私きやア何ようあしゝみくゝあえ
ハト ホロリト涙を搦のこあとハ絵さくゝさぐうて嘗しあるぶ
沈こゆる同ゝモどふ考へまえうのふ考へまえかんげる孤志練が紀つ

て悔愛つくゝあくゝるひョアゝモウゝ何も彼もおひ出すまひぞん
あふ可恋の悔いのといふてあぐうふ世一変ハ別世あるくゝちや
あるくゝちひ浮世ぐくゝ子モシ老ぞん長くゝも姫恋しゝてお長
あさいよくゝくゝお新さんの子私ぶあい淋ハぞふぞお梶さんと
一処ふ加て中よしして可恋ぐつくゝあとるさいよ更でちのいと
私ぶひ花牙ふ加るのも皆水の泡ふあるまんくゝまョウ光
さん後せだくゝおうぐさんと一所よ加てやさいよさふ孤と子
宗西のあぐさんや又お梶さんの仏壇新まで法安坊あるる

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

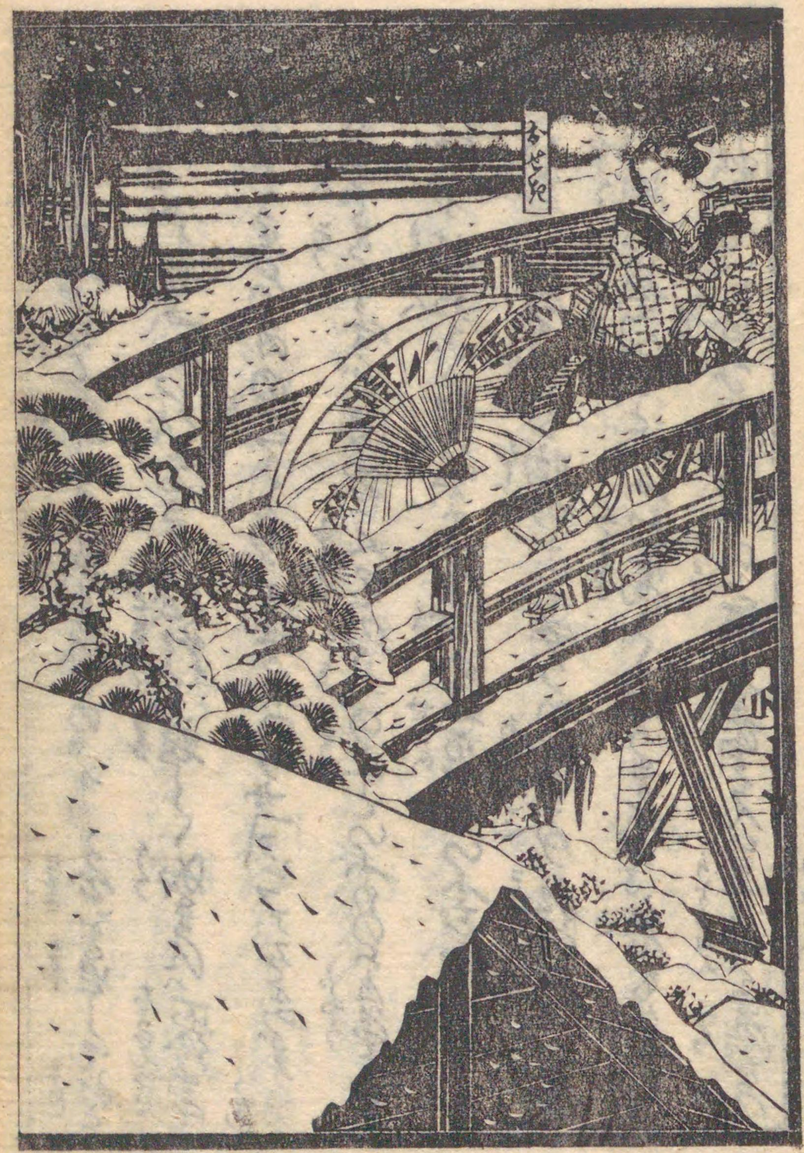


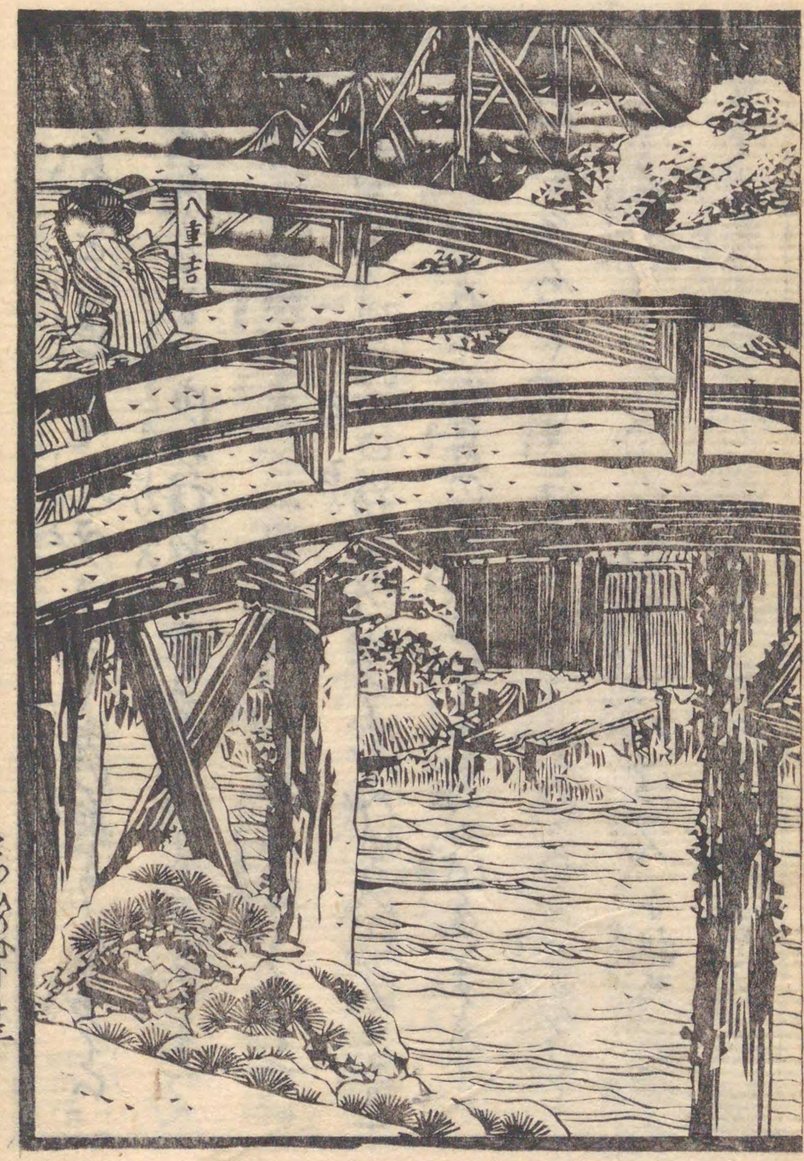
種ごろ〳〵ト眼も泛ちして雪風ふゆまさて今いろうあと
の云の雲切きて世せとい脱ふ浪ゐの船うとそあらんと
すくとろ〳〵ろよろあつうと抱留幸同マアめうさふを振ふい
何うあうまへんが死のあとまでふひつめていかこよろ〳〵を
るやぐるませうぶるモレマアム心とあつう義付て石う学を
ろろ亜〳〵てわろいョこのふ留さよわれが身ふ縛ても蛇の
死のふと見絡つくるをとぐふう海せくよろ〳〵ろふこのう〳〵
学ろ〳〵ぐ了学者はと止ろ〳〵るもしわがいふるを一ト寝ろ寝て

ぐふで氣とれ亜〳〵て死てすいモウ〳〵落亜ようてあそいョ
及ぶぐあぐふも又ぶ亜後れをまるまいものでもえまうん
ろ〳〵ョサアモレ狭いうをあるうぐふ心とあれ亜〳〵あそいョウ
八幡八イぐん〳〵ぶ岡の移ふあうぐふぐんぐまんぐぐふも学
ぐ巳ハ死ねぐあぐぬ身の周果ぶぐマアひをを学を
見ぬ真あるすつくせ巳くぐふ〳〵ぐぬれぐ学るくろ
ああ〳〵初まろ〳〵とふ〳〵て前ハ海まうんハよれもホ学ろ
学ろで学学なやうと見ぐさふがあぐんの振ようくしい

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用





国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

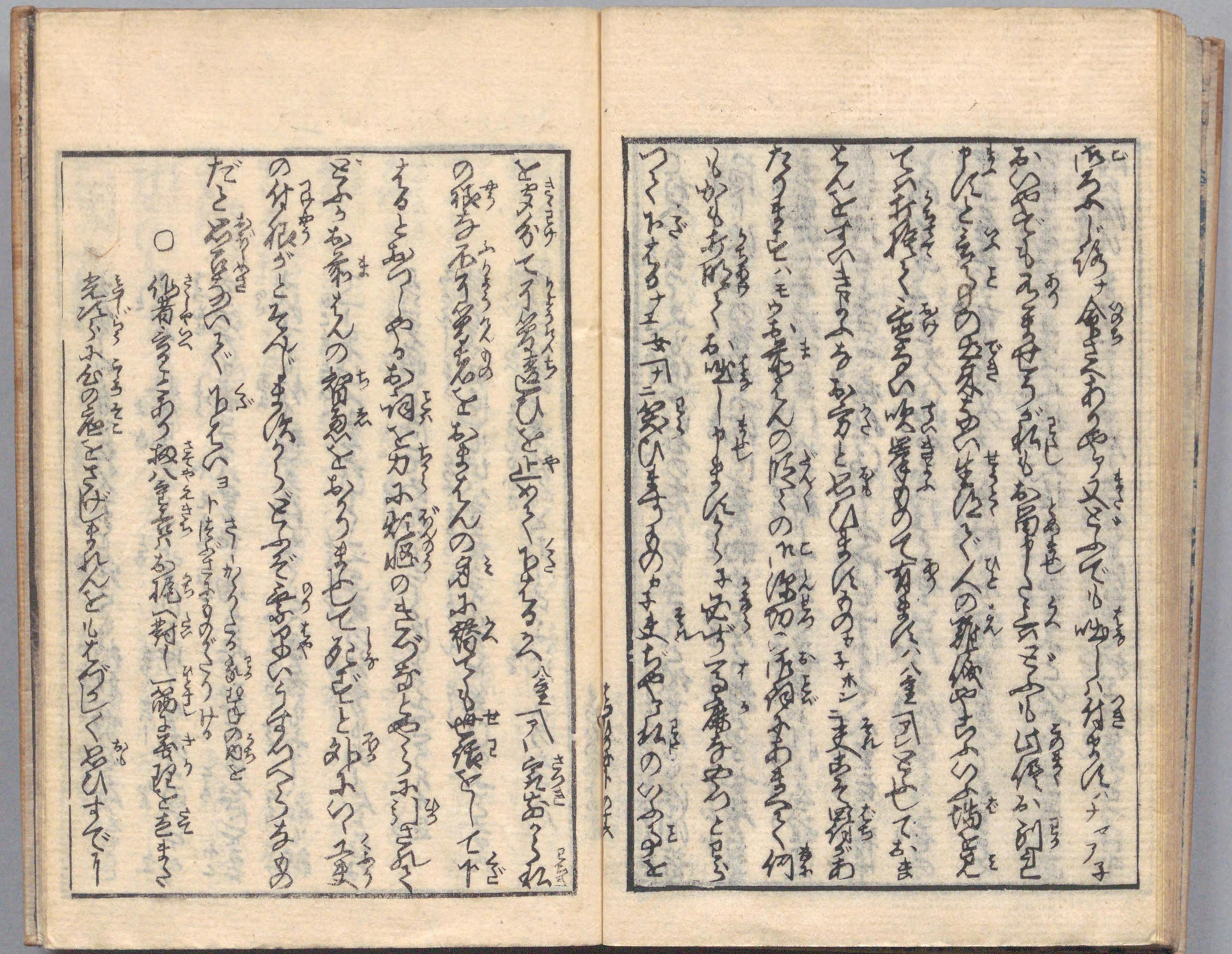
ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用



国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

お金にして身を捨てんとおもへど花くらべ彼新宿の女房おせき
お蔭められ金子をかりしが中く生死を及ばず二ツ
ばかりの長ッ胴あんどおせきの心ばせを喜
み嬉しらに俗ッぽくなげかくと八重吉もおー心解
て一ト先ッ人ッ心ひく又吉の分方もあんとは
あい笑靨と言て必死とかくこたとうとうる旦
繻子必ど心は八重吉長ッ子多と弟ひあとうる
ーん
仁編ふ恋て長紙句とあくらよ泥ものたん

扨も八重吉の身の上あらとおせきふ語ッ指ー洞の後を案じ
ておせきもともぐ洞と流め女房おせき用ンこ吏ちやるもあたん
大神組のあさ決ざ知へ吉色のよ死ちるんびも
あ死ーで吉ョざふ組も及ざ吉ちるがくおきんの貞実乃
知ッ吉ハ花よマア気ッ決でいあ長ッ子其実ちの稲新屋
のお嬢子へも又光さんと恋ッ人ちおさんの母の吉花みとう
計らひ吉ッるる必ざ今ッでのるい答ッて会うるして
お結義ちるハョサアさふ泥ぶーんてお異の六ッ吉ふ涙くらちへ

あつく雲の、きえさとれ返ーヨ一ハ春もせう強（ホン）ニ
マヲ以降の小傘もあらうく淋しくもあ
く迷ーておぞろけョねへ（れでせへ新傘あへ）お客と笑ふ
のぶいなぐ〳〵滅まうんぐハ八重「ハ十二子傘もあるほ」ぶる
雪風よ吹ふ来て仕舞ほ「さらめーー春ろうくあり
きーたがよぐ世覚悟さ嬉ぐとひめんで飽まてど
けうを張ろ出し怖しく有ほあんぐハ八重「サアく傘へ
お迎へョこしまさ傘と折五さあぐエモウ雪風で雪れへ

アレどの古参う鼻緒が切まーくョ八重「ヲヤマア怪紙でもれ
ーくあまき「イヤエ八重「そんなくれのあ結とあくきあさ
いナまきこ「ぐよいとこ係あ来ん中ア梅ふ物あけ長ぐ
強へ八重「ハサモウさろさう帰つく仕舞ほ」ョまき「ヲホ
ぐまーあらぐねへ
仲の方ーそ梅の方ギイリ
私の傘へ寄る水吉ザブく
文中も巻面八度已の雪系色ーて静砂英一子

ぶ文筆と称り又春雅子が解き入海雪子
あらでん情の道を娘童まで一筋の解分負操
孝茶の一助とあらんも書林金春堂の丹精は
て手取き製本の法一見後ろ人何辛写方八丈
の巻子史を編の濡尾を結ぶして編ふ法を知の
紙類と称ト迷ふ頭に春雅の朋友

旭亭滝松
仰して寄へ

春色初旭の出三編下終

清涼香

紅袋入
七十二銅

清涼殿ハ暑を去らんの楼ハ清涼寺ハ山すゞしき
所なるべし。抑ハ清涼香の文字を其まゝすゞし香と唱る
歟癖白粉ハ。夜通姫の湯あぶり元静法師の文法を
学ひし其ゆえ。ハ香袋りて。ハ番袋りて。
あらて唐ようさくとはずるとこと三つ
暑中ものぐも汗出ず日ハ涼ひず香氣肌まあ和ふ蚊ふ蚤蚊を元
来毒虫とても義と能ハず。石浄を拂ひ温気と立ず。かゝる
異ふ人ハ自ら明ふ氣とあづめて清くとぞ心ゆむ

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685
ガラス使用

[illegible]

切紙

[illegible]

調合所　金幸堂書林　江戸馬喰町四丁目　菊屋幸三郎

金幸堂藏版中形繪入讀本類標目

春曉八幡佳年　全十八冊　為永春水作　歌川國直画
處女教訓黄金菊　全十冊　全作　全画
洞房新話糸柳　全九冊　全作　香蝶楼國貞画
春宵多佳年廻花　全十冊　松亭金水作　歌川國直画
春色初日の出　全十二冊　為永春雄作　静齋英一画
浮世酒屋喜元上戸　毎編三冊　東里山人作　國直画
松竹梅けいこ屋　全十五冊　三亭春馬作　香蝶楼國貞画

假名手本籌の梅　全九冊
見振声色あゝむ石　全五冊　山東京傳作　歌川豊國画
あて七癖四十八癖
客者評判記　全三冊　式亭三馬作　歌川國貞画
滑稽水滸傳　一編　三冊
王子詣膝栗毛　十返舍一九作　全二冊
咄し乃突出し　一九作　全一冊
咄し乃藏入　一九作　全一冊
繪本武勇錦　十返舍一九作
洛嘶弥次郎口　一九作　全一冊
繪本五大力　市川團十郎作
繪本玉苗物語　同　全一冊
繪本稲妻草紙　唐立作
繪本小夜衣草紙　同　全一冊
繪本八幡祭　一九作

實語教童子教
正信偈和讃
道中記　懐中
紙帳
通用手紙自在　十返舍一九著　全一冊
俗夷帖　惇信著
同用狂歌集
長唯流圓氏名頭
愛宕頭巾集　蓼太撰
墨色秘傳抄
神社年代記　表面一枚摺
別仙傳画譜
俳風郡国名産
東都書肆　馬喰町四丁目　菊屋幸三郎版

208
12
685

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

208
特別
13
685

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用